

# 第4回インファロー技術研究会

▶2月26日  
(北海道北見市)

ポテカル編集部(当社内)は2月26日、主催イベントの第4回インファロー技術研究会を北海道北見市のホテルロイヤル北見で開いた(協賛…シンジェンタ ジャパン株式会社)。十勝以外では初めての開催になった今回は、この技術に関心のある生産者ら60人余りが会場に集まり、道内での取り組み状況に耳を傾けた。

インファロー(in-furrow)とは植付時植溝内土壌散布を意味する。国内での歴史は浅く、この使用方法で農薬登録が取得されたのは2011年10月のことだ(シンジェンタ ジャパンのアミスター20フロアブル。ジャガイモの黒あざ病に適用)。試験するにも当時は国産機が存在せず、その開発の呼びかけから始まった。それから4年が経ち、国産機が発売されるとともに試験結果も道内で蓄積されたなかで今回のセミナーを迎えた。

## 黒あざ病の発生が工場での加工ロス招く

まず、シンジェンタ ジャパン技術普及部北海道エリアマネージャーの平田明靖氏から「インファロー技術と網走管内の試験状況について」と題した講演があった。黒あざ病の症状や株式会社やまびことの共同開発品であるインファロー散布機の開



パネルディスカッションの様子。インファロー散布機のユーザー2人が機械や技術の実感を語り合った。

発経緯、また薬剤のアミスターを用いたインファロー処理での網走管内の試験結果に関して説明した。次に、カルビーポテト株式会社馬鈴薯研究所栽培技術課の住ノ江努課長から「アミスターインファロー試験結果について」と題した講演があった。同社は、13〜15年の3年間にわたって試験を実施した。加工用ジャガイモの栽培や貯蔵の現場では黒あざ病などが発生しており、それによって収量や品質が低下するとともに、工場での加工ロスを招いている



60人余りが会場に駆けつけた。

として、この問題に向き合ってきた。その総括を行なった。やまびこ北海道株式会社北見営業所の上野兼史所長から「インファロー散布機『TJS300/DP-SG』製品説明」と題した講演の後、この機械のユーザー2人を壇上と呼んでパネルディスカッションと続いた。詳細は『ポテカル』16年4月号の特集をご覧ください。誌面では、カルビーポテトの住ノ江氏の講演とパネルディスカッションの内容を採録している。(永井佳史)